

《教育長メッセージ 第10号》

『手本』

子どもたちは、大人を手本にして、生き方を習います。

「手本」は、もともと字や絵を習う時に、それに似せて書き写すことによって、正しい形や正しい方法などを身につけるためのものです。

子どもたちにとって、手本の有様はとても大きいのです。まちがいなく、その子どもの人生を左右するのです。

子どもたちの生き方の「手本」は、その子どものまわりの大人です。

一番身近な大人である、ご家族や親せきの方、近所の方、教職員の生き方が、子どもたちに大きな影響を与え、間違いなく、驚くほど子どもたちに映るのです。

もちろん、私たち大人が作り上げる社会環境も大きな影響を与え、時に、子どもたちは、それに翻弄されたりもします。

いずれにしても、そう考えると、さまざまな子どもたちの問題は、よき手本であるべき、大人に原因があると言えるのです。

「大人の背中を見て子どもは育つ」とよく言われますが、まさに、そのとおりなのです。

例えば、基本的な生活習慣については、今年度の全国学力学習状況調査でも、学力との関係が明確になっています。「早寝・早起き・朝ご飯」など、食事や睡眠が規則正しくできている子どもほど、学力は高いという結果です。子どもの生活習慣は、家庭の生活習慣です。「早寝・早起き・朝ご飯」、大人が手本になっているでしょうか。

例えば、教員が黒板に字をていねいに書くと、学級の子どもの字がていねいに、きれいになります。1年間、教員の字を見て、それを書き写すのですから当たり前のことかもしれません。教員は、「字をていねいに書きなさい。」と口で何度も言うより、自ら範を示すことが効果的なのです。

例えば、お年寄りの方々が、趣味やボランティアでいきいきと生活し、できれば、子どもたちに学校や地域で関わっていただければ、子どもたちは、将来自分もそのように生活しようと思うのです。

よりよく生きるための継続は、大人が手本を示し、それを伝えることです。私は、教育の究極の方法は、自分が良いと思うこと、自分が美しいと思うもの、自分が人はこうあるべきと考えることを、伝えることだと思っています。

私たち大人の役割は、言葉だけでなく、自分が手本となって、夢や希望を持って、よりよく生きる様を示すことなのではないでしょうか。

「がんばらねば」と私は思うのです。

次回は、「おふくろの味」について、私の思いを伝えます。

